

# 野外教育における「自然」の解釈

福畑皓生 (信州大学大学院教育学研究科)

## 1. 本研究の概要

野外教育にとって、「自然」という語句は Outdoor Education が「戸外」ではなく「野外」と訳されたことに由来し、「野外」≒「自然」と解されている。しかし、日本野外教育学会において、「自然」という語句についての研究は確認できない。よって、本研究では野外教育における「自然」の解釈を試みる。

## 2. 「自然」の検討

本研究では、「自然」の見方について検討する。岩田<sup>1)</sup>は、眼に見えている「自然」を文化の秩序の中にあるものと説いた。鳥越<sup>2)</sup>もまた、通常の「自然」は人の手が加わっていると説いた。他の学問領域の研究者5名による「自然」の見方にも「文化」の意を読み取ることができた。ここから、「自然」に「文化」の側面があると解釈できた。

## 3. 「自然」と「文化」

日本語・英語・ラテン語の語義を検討すると、便宜的に「自然：人の手が加えられていないもの」、「文化：人の手が加えられたもの」と解釈できた。ここから、二項対立概念であると捉えることができ、あらゆるものに「自然」と「文化」の二側面がある(図1のX軸上にプロット)と解釈した。



図1. 文化自然図

## 4. 「文化」の特性

杉浦<sup>3)</sup>は、「文化」に「時間の持続」と「空間の共有」があると説いた。これを、「文化」に時空間性が在ると解した。ここから、「自然」に時空間性が在ると解釈できた。

## 5. 野外教育における「自然」の解釈

野外教育活動を、図1を用いて表すと、X軸の移動と示すことができる(図2)。野外教育における「自然」にもまた、時空間性がある。これにより「自然」は分別でき、不明瞭さが還元される。

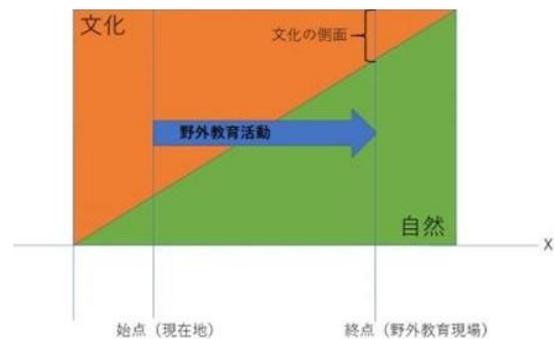


図2. 文化自然図(野外教育の図説)

## 6. 本解釈による野外教育への寄与

野外教育における「自然」が時空間性を帯びると、「自然」に差異を見出すことができ、諸活動の識別が可能になる(図2の始点及び終点の差異による)。さらに文化の側面から、活動の中で「自然」と「文化(人間)」との関係性を可視化することも可能となる。

## 7. 展望

本解釈は、理論段階である。諸活動の始点及び終点を文化自然図にプロットし、その整合性の確認が成されれば、野外教育活動のダイアグラムになり得ると考えている。延いては、野外教育学を体系化する試みの一助となるのではないだろうか。

## 〈参考文献〉

- 1) 岩田慶治(1986): 人間・遊び・自然、NHK ブックス、15-28
- 2) 鳥越皓之(2001): 講座環境社会学第3巻-自然環境と環境文化、有斐閣、1-23
- 3) 杉浦直(1992): 空間的シンボリズムと文化、文化の基礎理論と諸相の研究、57-74